

1.福島ロボットテストフィールド

- 所在地 福島県南相馬市原町区萱浜字新赤沼83
南相馬市復興工業団地内
- 開設時期 2020年3月
- 概要
福島県南相馬市と浪江町に整備された、陸・海・空のフィールドロボットの一大開発実証拠点。インフラや災害現場など実際の使用環境を再現しており、ロボットの性能評価や操縦訓練等が可能となっている。
- 見所
様々な災害のシチュエーションを想定した建物や構造物があり、フィールドを見るだけでも面白い。タイミングが合えば実際の実験の様子を見られることも。昨年10月にはワールドロボットサミットが開催され、大規模な災害による困難環境下で活躍するロボット・ドローンの開発や、プラント・トンネル災害の予防、災害時の対応のための技術開発を目的とする競技が行われた。



<https://www.fipo.or.jp/robot/>

メモ

2.小高パイオニアヴィレッジ

- 所在地 福島県南相馬市小高区本町1-87
- 開設時期 2019年3月
- 概要

OWB株式会社が運営する、「境界の曖昧な建築」をデザインコンセプトに設計された宿泊可能なコワーキングスペース。原発事故により2016年7月まで避難指示区域であった小高区に、ゼロベースから新しい社会を創造するコミュニティを形成している。

- 見所

地元出身でいち早く帰還したOWB代表の和田智行さんが、「地域の100の課題から100のビジネスを創出する」を掲げて創ったマイクロスタートアップの集積の拠点。日本のソーシャル、スタートアップ界隈でも注目が集まっている。ここから、(株)haccobaや(株)ぷくぷく醸造をはじめ、地域の未来を創るスタートアップが生まれている。



<https://village.pionism.or.jp/>



メモ

3.株式会社菊池製作所 南相馬工場

■ 所在地 福島県南相馬市小高区飯崎字南原65-1

■ 開設時期 2016年2月

■ 概 要

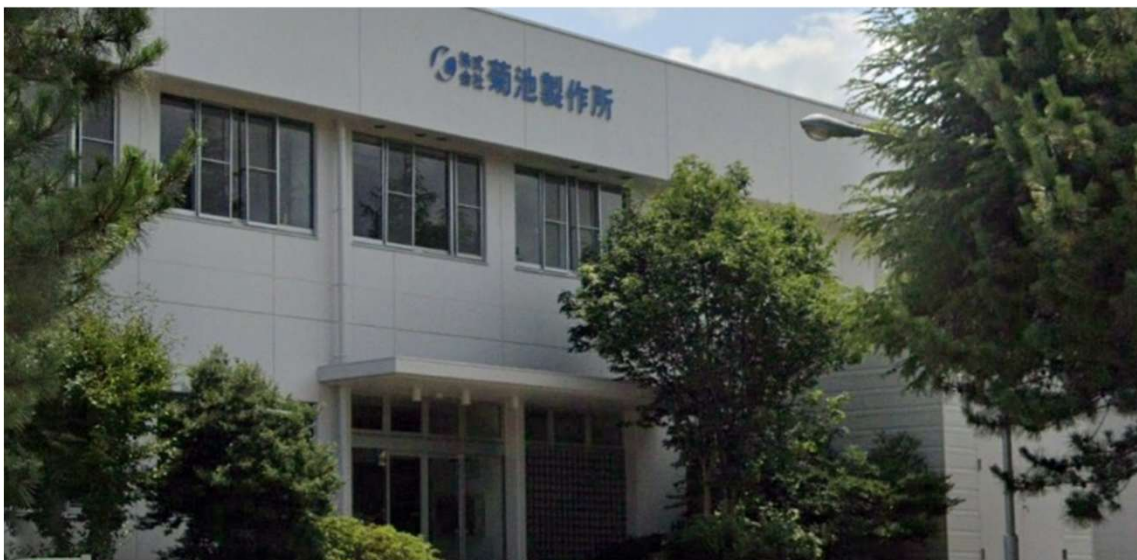
様々な分野の新製品開発をサポートする、総合ものづくり支援企業。顧客からの要望やアイデアを具現化するための技術支援を行っており、開発、設計から金型製作、試作、評価、量産に至るまでの体制を確立している。

■ 見 所

腰などの負担を軽減する筋力補助装置「マッスルスーツ」は、多くの介護・医療関係者に利用されている。

「ものづくりメカトロ研究所」を設立し、研究開発機能とともに、菊池製作所とベンチャーをつなぐハブ機能も果たしている。

この工場では、人間の筋力を補助する「マッスルスーツ」や、災害発生時に上空から監視する無人飛行機(ドローン)などを生産する。



<http://www.kikuchiseisakusho.co.jp/>

メモ

4.株式会社ぷくぷく醸造

- 所在地 福島県南相馬市小高区仲町1-117
- 開設時期 2022年7月
- 概要

同じ小高区のクラフトサケ醸造所(株)haccobaの醸造責任者だった立川哲之さんが新たに立ち上げた「(株)ぷくぷく醸造」。当初は施設を持たないファントムブルワリーとして各地でお酒を造っていたが、2024年秋、空き家だった古民家をリノベーションして自社蔵を設立。

- 見所

全国の酒蔵のほとんどを回ったという酒マニアの立川さんが、全量を乳酸菌と酵母ともに無添加で醸造している。「異文化との境界線を溶かした日本酒」をコンセプトに、日本酒とクラフトビールの技術を掛け合わせたホップサケや、お米の個性を生かしたドブロクなど伝統に自由な発想を掛け合わせた酒造りが魅力。



https://imadeya.co.jp/blogs/brewery/pukupuku?srsltid=AfmBOorgLlr_Z7StGZj_o-LqL7m8dldfeYzOfwMzIYjE8p45rc6cpC6G

メモ

5.株式会社haccoba (夕食会場)

- 所在地 福島県南相馬市小高区田町2-50-6
- 開設時期 2021年2月
- 概要

小高区に移住した佐藤太亮さんが立ち上げた、「酒づくりをもっと自由に」をコンセプトに、ジャンルの垣根を超えた自由な酒づくりを行う酒蔵。日本酒にクラフトビールの製法をかけた合わせた創作酒“クラフトサケ”の醸造・販売を展開している。

■ 見 所

今、大きな注目を集めている日本酒の新ジャンル

「Craft SAKE」ムーブメントの中心の酒蔵の一つで新作をオンラインで販売すれば5分で完売してしまうほどの人気を誇る。2026年9月には大手町ゲートビルディング2F施設内にhaccoba 内神田醸造所を開業予定。小高と浪江町にも酒蔵を構えており、海外への輸出にも積極的に取り組み、海外での醸造も視野に入れている。



<https://haccoba.com/>



メモ

6.双葉屋旅館（宿泊先）

- 所在地 福島県南相馬市小高区東町1-40
- 開設時期 2016年7月営業再開
- 概 要

小高駅前に位置する歴史ある旅館。震災による津波で1階部分が浸水したが、2012年に南相馬市に戻り、仮設住宅で暮らしながら旅館の改修に着手。避難指示が解除された2016年7月に営業を再開した。地域復興のハブ的な存在として、多くの若者や企業研修の受け入れを行っている。

- 見 所

実家に帰ってきたかのようなアットホームな雰囲気最大の魅力。女将の小林さんは小高区の地域活性化にも尽力しており、小高を訪れる人と住民を結ぶ活動を行っている。(株)ぷくぷく醸造や小高パイオニアヴィレッジも徒歩圏内にあり、小高の起業家コミュニティを体感できるロケーションとなっている。



<https://odaka6014.jp/stay/>

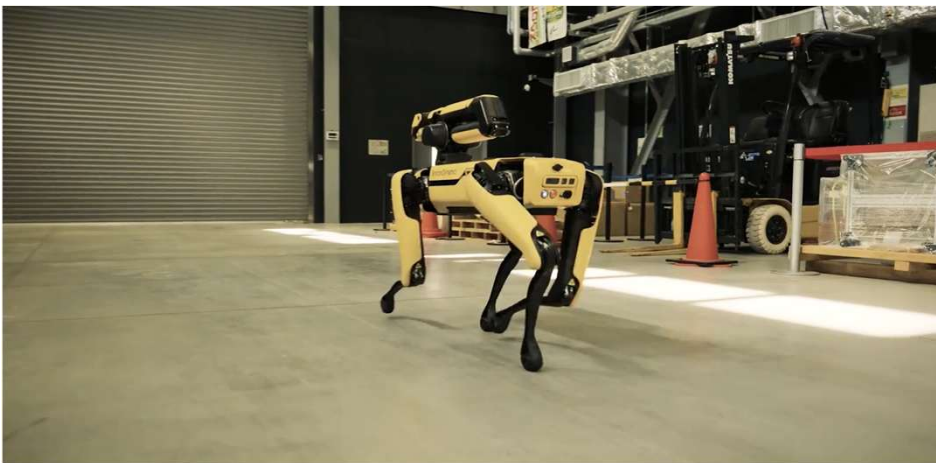
メモ

- 所在地 福島県双葉郡富岡町大字上手岡字茂手55-1
- 開設時期 2021年10月
- 概要

福島第一原子力発電所の廃炉作業に伴い、放射線管理・運営および放射能分析・測定を通じて福島復興に貢献している。また教育訓練施設を活用し、廃炉作業に必要な技術や知識の習得、技術者の育成・技能伝承を担っている。

- 見所

福島第一原子力発電所の廃炉作業を支える放射線計測技術、環境モニタリング、データ分析などの分野における先進的な取組を知ることができる貴重な機会。遠隔操作ロボット（SPOT）および人間の腕を模擬したロボット（マニピュレータ）の操作を体験することで、新たな技術開発や事業展開の方向性を検討する上で参考となる。



写真は遠隔操作ロボット(SPOT)



<https://www.tokyo-pt.co.jp/environment-service/reconstruction>

メモ

8.カフェレストラン&フラワーショップ RaFand

- 所在地 福島県双葉郡富岡町本岡字清水前399
- 開設時期 2023年3月
- 概要

富岡町の桜の名所・夜の森地区に開業したカフェレストラン&フラワーショップ。富岡町夜の森出身のオーナー・遠藤美音さんが、花と料理で地域ににぎわいを取り戻したいとの思いから開店した。

- 見所

「和洋の融合」をコンセプトに、富岡町内で営農を再開した農家の野菜や「常磐もの」の魚介類など、地元食材を中心に使った本格コース料理が魅力。明るく広々とした店内にはフラワーショップが併設され、町内でハウス栽培されたバラなどの花々も楽しめる。窓の外に広がる田園風景には年々田んぼが増えており、食と花を通じて富岡町の復興を肌で感じられる場所となっている。



<https://tomioka-shokokai.jp/office/rafand/>

メモ

9.東京電力廃炉資料館

- 所在地 福島県双葉郡富岡町中央3-58
- 開設時期 2018年11月
- 概 要

原子力発電所の事故や廃炉事業の現状等の記憶と記録を残すために、東京電力により設置された資料館。反省と教訓を伝承し、今後の事故防止や復興へ繋げることを目的としている。

- 見 所

この資料館の最大の特長は、事故を起こした当事者である東京電力が、自らの失敗や反省、当時の現場の緊迫感をリアルに公開している点。また福島第二原発のPR施設「エネルギー館」だった建物が、原発事故後に廃炉資料館となったもので、建築はキュリー夫人、エジソン、アインシュタインの生家がモデルとなっている。



https://www.tepco.co.jp/fukushima_hq/decommissioning.ac/

メモ

10.株式会社ReFruits

■ 所在地 福島県双葉郡大熊町下野上清水584

■ 開設時期 2023年10月

■ 概要

学生時代に大熊町に関わった原口拓也さんと阿部翔太郎さんが、震災で失われた大熊町の特産品だったキウイフルーツを復活させるべく立ち上げた。2024年春から大熊町内2.5haの圃場でキウイを栽培する「キウイの国」をスタートし今年2026年から本格的な収穫・出荷を開始する。

■ 見所

原口さんと阿部さんが、このハンデのある地域で農業という難しい分野で起業するというチャレンジ精神と地域への思いが何よりの魅力。単にキウイを復活させるというだけでなく、産業として育て、日本を代表する農業企業を目指している。

二人の行動力で多くの若者を巻き込み、活力あるコミュニティを創り出している。



<https://www.kiwinokuni.com/>

メモ

11.大熊インキュベーションセンター

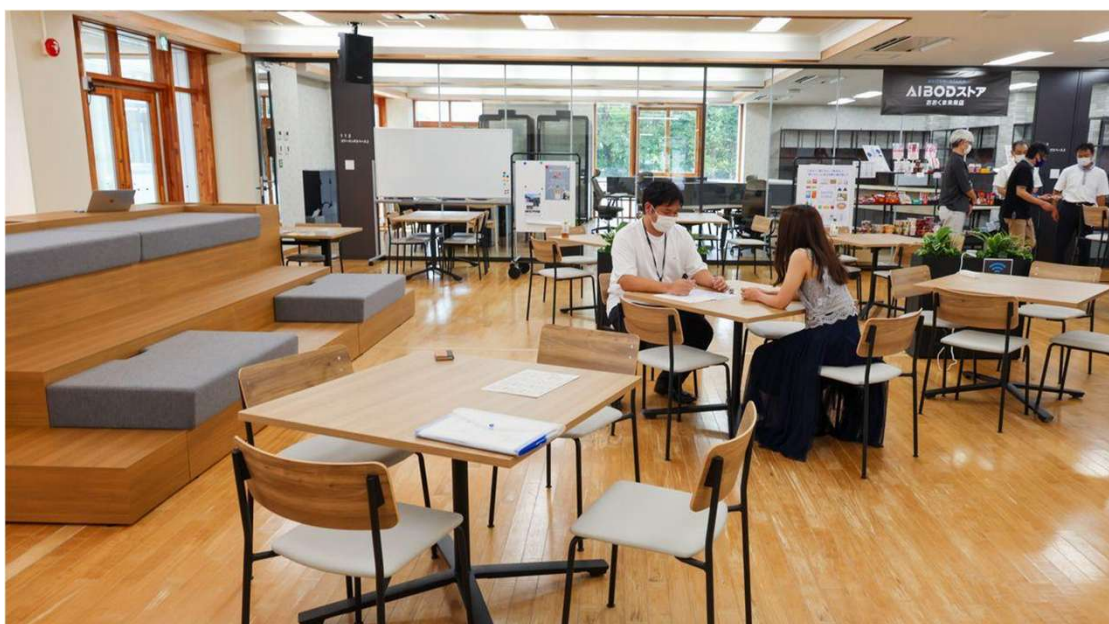
- 所在地 福島県双葉郡大熊町下野上清水230
- 開設時期 2022年7月

■ 概 要

小学校をリノベーションしたインキュベーション/コワーキングオフィス。交流スペースは無料利用が可能で、シェアオフィス会員は月額3,000円で入居企業となれる。

■ 見 所

小学校の校舎がそのまま活かされた楽しいオフィス。利用企業・団体は150社を超え、企業間の連携が生まれている。コミュニティの交流の拠点にもなっており、今年3月には復興交流イベント「おおくま学園祭2026」が開催された。会津大学との産学連携交流会や、浜通り地域の企業間連携イベント「浜通り共創ハブ」など、多様な交流の場が広がっている。



<https://okuma-ic.jp/>

メモ